22 イボウミニナ　（ウミニナ科）

Batillaria zonalis

兵庫県ランク:A

環境省ランク:VU

種の概要

北海道南部から南西諸島に分布し、やや開放的な内湾の砂泥質干潟の低潮帯に生息する。殻長40mm、殻幅13mm前後で細高いが、産地によっては殻長25mm、殻幅10mmほどでリュウキュウウミニナに近い外観の場合もある。螺肋は細かく、体層以外ではあまり目立たない。太く低い縦肋があり肋間は広い。殻口は肩部が張り出して菱形を呈し、外唇上部は湾入する。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
○	○		○	○		△	○

県内分布

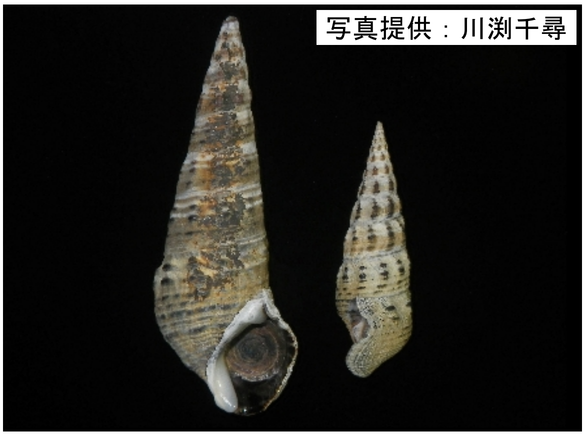
相生市、たつの市、赤穂市、洲本市

県内における生息状況及びその他特記事項

今見られないからAに変更。2005年に洲本市の内湾干潟で生貝が発見され、2年後、同湾に流入する2極小河川の河口干潟でも生貝が確認された。内湾干潟の個体は小型で殻長25mm前後であり、河口干潟産のものは大型で、いずれも殻長40mmを超える個体が見出されたが、現在では内湾干潟のみ生息している。生息範囲はヘナタリ(貝類Aランク)よりもやや広いが、生息数はヘナタリともに非常に少ない。播磨西部では新鮮な死貝が時折見つかるのみである。

保護上の留意点

本種の生息可能な干潟は少なくないが、既知産地が限られていることにおいては要求される微環境が既知産地にしかないことにあるので、現状では既知産地の保全にほかならない。また、播磨地方では生貝の確認ができていないが、多種も含めて今以上の干潟の消失を避けるべきである。



【執筆者】　川渕千尋